

家庭学習の手引き

～自ら進んで学ぶ子を育てるために～

浦安市立浦安小学校
北部小学校
東小学校

1、生活習慣

- 早寝・早起き・朝ごはんをこころがけましょう。
- あいさつは、家族みんなです必ずしましょう。
- 正しい食習慣を身につけましょう。
- 身の回りの片づけを習慣づけましょう。

2、学習習慣

- 毎日少しでも取り組ませるようにしましょう。
- 集中して学習できる環境を作りましょう。
- 家族で読書に親しみましょう。
- たくさんほめて、はげしましょう。



◎家庭学習によって、次のような教育効果が期待できます。

学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることにつながります。特に、漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで定着していきます。宿題は必ずやり、時間があったら自主学習を行うことで、学校で「わかった」ことが、家庭での反復学習で「できる」という自信に変わっていきます。

脳の活性化

「読み・書き・計算」を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日繰り返し使うことで活発に動くようになります。鍛えれば、鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。小学生のうちからどんどん鍛えましょう。

学ぶ習慣をつける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身についてきます。毎日続けることで、やがて、当たり前前の習慣になります。少しずつでも継続することが大きな力につながります。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習をすることが大切です。

がまん強さ、根気、集中力をつける

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ・根気・集中力を養うことができます。テレビやゲームの時間を決めて、学習や読書等の時間を確保したいものです。

家族のふれあい・絆

「本を読んでいる時、横で聞いてあげる」「勉強がわからない時、教えたり調べたりしてあげる」など、家庭学習をしている子どもに親が関わることにより、コミュニケーションがはかれます。家族のふれあいの機会が増えることにより、家族の絆も強く太くなり、子どもの精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育つことになるでしょう。

低学年(1・2年)

家庭学習のめやすは20分以上

この時期の子どもたち

一緒に学習して、やる気を高める時期

学習習慣を身につけましょう

様々なことに興味を持ち、知りたいことがたくさんあって、自分でやってみようとする気持ちでいっぱいです。しかし、やる気はあってもできないことがたくさんあります。自分でできるようになるまでは、手助けは欠かせません。粘り強く支えていたしながら、小さな進歩を見逃さず、心からほめてあげてください。

学習内容について

- ◆「読み、書き、計算」など、基礎的・基本的な学習が始まります。
- ◆教科ごとに45分間授業が基本です。先生の話をしっかり聞いて学習します。
- ◆生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりします。
- ◆繰り返し練習することで、力のつく学習内容がたくさんあります。

家庭学習のポイント

- 子どもの学習に関心を！
 - ◇「家でも勉強する」という習慣をつけましょう。
 - ・少ない時間でも一緒にやってみましょう。
 - ・一緒にできないときは、あとで目を通して声をかけてあげましょう。
- 勉強する場所の環境づくりを！
 - ◇学習机やテーブルなど、決まった場所をつくりましょう。
 - ・テレビは消します。せめて音量を下げるように家族で協力しましょう。
 - ・短い時間でも集中できるように、学習場所の整理整頓をしましょう。
- 家庭と学校との連携を！
 - ◇学校からの連絡等を確かめましょう。
 - ・連絡帳や学校からのプリントを一緒に確かめましょう。
 - ・明日の学校の準備や宿題が終わっているか一緒に確かめましょう。
 - ・「正しい姿勢で机に向かう」「鉛筆を正しくもつ」「明日の授業の準備をする」「身の回りの整理整頓をする」も基本となる学習です。

<チャレンジしよう!>

音読・読書・視写

ひらがな・カタカナ

計算・漢字・日記

鍵盤ハーモニカ

かけ算九九など

子どもはお手伝いが好き

子どもは、お手伝いをするのが大好きです。子どもがお手伝いをしたい気持ちは、子どもが心身ともに成長しているということです。自分の力を試してみたいという意欲の表れでもあります。

子どもはお手伝いをすることで責任感が強くなり、達成感を味わいます。「一緒に手伝ってくれる?」と声をかけてみましょう。親子のコミュニケーションも深まります。

中学年(3・4年)

家庭学習のめやすは40分以上

この時期の子どもたち

認めてほめて、自信をつける時期

自分から学ぶ習慣を育てよう

自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなり、やる気や根気が育つ時期ですが、まだ宿題や持ち物の点検などの手助けは必要です。また、語彙(言葉)も多くなり、抽象的な思考ができるようになっていわれています。好奇心が旺盛で、行動範囲も広がります。

みんなと行動することを好むとともに、口答えや反抗が少しずつ見られるようになります。家族の温かい助言や励ましの言葉かけが、やる気を起こさせます。

学習内容について

- ◆総合的な学習の時間や社会科、理科の学習が始まり、学習範囲も大きく広がります。
- ◆資料集や地図帳、辞典などを使い、調べ学習をすることが多くなり、自学自習の基礎を学びます。
- ◆新しい漢字をたくさん習います。(3、4年生とも200字ずつ)
- ◆算数では、分数や小数など、少しずつ抽象的な内容を学び始めます。
- ◆四則計算(＋、－、×、÷)の基礎・基本を徹底して学びます。

家庭学習のポイント

- 子どもの学習に関心を！
 - ◇がんばりを見逃さず、励ましの言葉をかけましょう。
 - ・分からないところは一緒に考えてみましょう。
 - ・宿題のほかにも、進んで学習に取り組むようにしましょう。
- 勉強する場所の環境づくりを！
 - ◇学習を始める時間を一緒に決めましょう。
 - ・テレビやゲームの時間は話し合って決めましょう。
 - ・学習場所の整理整頓や片づけができるようにしましょう。
- 家庭と学校との連携を！
 - ◇学校からの連絡等を確認しましょう。
 - ・連絡帳や学校からのプリントを置く場所や渡す約束を決めましょう。
 - ・食事の時に学校での出来事や連絡について話をしましょう。

<チャレンジしよう!>

音読・読書

漢字・計算ドリル

観察・ローマ字

日記・感想文

リコーダーなど

「ただいま」「おかえり」

挨拶は、より良い人間関係を築くために必要なものです。コミュニケーションが取れないために、ケンカや誤解が生まれることがあります。挨拶は、幼いころからの家庭環境が大きく影響します。そして、幼いころに身についた習慣は、大人になってからも持続します。

夫婦間やご近所の方との挨拶の様子を子どもはよく見て学んでいます。

「ありがとう」「ごめんなさい」も、とても大切な言葉です。

高学年(5・6年)

家庭学習のめやすは60分以上

この時期の子どもたち

見守って、伸ばす時期

計画的に学習を進めましょう

一人前に接してもらっているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になります。また、自分を客観的に見つめたり、友だちと自分を比べたりするようになります。

考える力も大人並みになり、時には大人への反抗も見られます。得意な教科と苦手な教科を意識し始めます。「やればできる」という気持ちを持たせ、自尊感情を育てるように、認めたり励ましたりすることが大切です。先生や家族のアドバイスにより、学習に対する意欲や興味・関心が大きく左右されます。

学習内容について

- ◆学習内容が多くなる上に、社会や世界に目を向けた学習もします。
- ◆筋道を立てて考える論理的な内容の学習や抽象的な内容の学習が増えてきます
- ◆自分で課題を見つけ、解決していく学習(問題解決的な学習)が多くなります。
- ◆「家庭科」の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。

家庭学習のポイント

- 子どもの学習に関心を！
 - ◇計画を立てて、自分で学習が進められるように見守りましょう。
 - ・子どもの小さな進歩や努力を見逃さず、心からほめましょう。
 - ・兄弟や他の子と比べず、昨日のわが子と比べましょう。
- 勉強する場所の環境づくりを！
 - ◇自分に合った生活リズムと学習リズムをつくりましょう。
 - ・夕食の前や後、早朝など、学習に取り組む時間帯を決めましょう。
 - ・一週間に一度でも、じっくりと読書をする時間をつくりましょう。
- 家庭と学校との連携を！
 - ◇悩みや不安を感じやすい時期です。心配があれば、担任等に相談しましょう。
 - ・カウンセラーさんがいるエプロンルーム(相談室)を利用しましょう。
 - ・家庭でも結論を急がずに子どもの話をゆっくり聞きましょう。

<チャレンジしよう!>

授業の予習・復習

読書・暗唱・短作文

辞書引き・調理・裁縫

新聞やインターネット

トを活用した学習など

「ほめること」「叱ること」

子どもが何かいいことをしたとき、何かできるようになったときに大切なことは、子どもと一緒に喜んであげられることです。自分のことのように心底から嬉しいと思うことです。

子どもが間違ったことをしたときは、残念で悲しい気持ちを表しましょう。親が叱らなければならないことは、子どもにとって悲しい出来事です。親子でその悲しみを共有しましょう。

親の感情的な怒りは、子どもの心を閉ざしてしまいます。